

伊査隊跡遺大學院學國

奇玉。新倉館跡

『伊場遺跡—西遠地方に於ける低地性

一九五三年

【浜名郡可美村城山遺跡範囲確認調査概報】

一九七八年

- |   |       |                       |
|---|-------|-----------------------|
| 1 | 所在地   | 埼玉県児玉郡美里村大字南十条字新倉     |
| 2 | 調査期間  | 一九七七年（昭52）十一月～一九七八年三月 |
| 3 | 発掘機関  | 美里村教育委員会              |
| 4 | 調査担当者 | 菅谷浩之・岡本幸男             |
| 5 | 遺跡の種類 | 居館跡                   |
| 6 | 遺跡の時代 | 室町時代                  |

卷之三

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

新會官太傳造文書事美二半

新倉館は構造改善事業に伴う調査

卷之三

本館についての記録はなく、  
『埼

い。ただ伝承として、江戸時代に

卷之三

い  
る。

昌黎縣志

飯は標高七八百メートルの立地

り、さまたま内屈の部分が方形で

り  
がさがさ内堺の音分が二ノ井

調査の際二項目のことが筆端である。

調査の際に注目したのが発端である。

館の存する二の地蔵は、当初

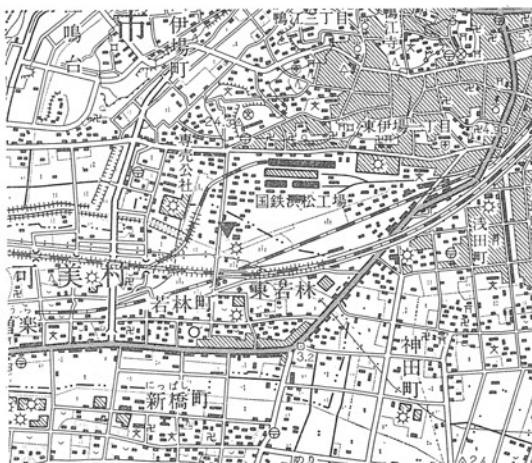
館の存在するこの地域は、  
三夜

卷之二

が館跡であることか確認された。

となつた。

調査によると、外堀を含めた館の規模は、東西一二〇メートル、



### 城山遺跡木簡出土地点図

南北一四〇メートル程で、内郭の規模は中央部で東西六一メートル、南北七三メートル程であった。

一部の調査であつたが、内郭から発見された遺構としては、柱穴が代表的なもので、中央部南寄りに集中して見ることができた。少なくとも三、四棟の建物遺構を確認している。その他に、粘土堆積遺構、礫配石遺構、土壤状遺構などである。

内堀は三ヵ所で確認したが、幅八・二メートル、深さ一・八メートル。外堀は西側の大半と北側は、道路や削平により不明であったが、南側の外堀の中央で幅五・二メートル、深さ一・六メートル程度、いずれも薬研堀である。

出土遺物は、木製品として木簡が内堀より一点、外堀より一点出土した。他の木製品として漆塗の椀や、曲物などがある。中世の館らしく、外堀からは多量の内耳式土器やホウロク、それに各所でカフラケが出土している。古錢は熙寧元宝と景德元宝であった。

## 8 木簡の釈文・内容

木簡は三点出土しているが、材質はスギ材である。(1)・(2)は完形であるが、(3)は一部のみである。

釈文については、墨跡の赤外線写真では比較的鮮明な個所もあるが、獨得の崩字で判読の困難なものである。



(1)

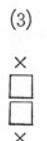
122×25×6 015



新倉館跡木簡出土地点図



122×28×3 015



(67)×27×4 015

なお、上端に径三ミリの孔がある。

## 9 関係文献

菅谷浩之・岡本幸男  
『武藏新倉館』(埼玉県児玉郡美里村教育委員会)

一九七八年  
(菅谷浩之)